SAMPLE / 架空の相談例

持ち味を知り、
会話を少し楽にする。

相談者Aさん ／ 計算用の生年月日：1985年7月15日
日本時間を基準に計算。人物・相談内容はすべて架空です。

本命星
六白金星
責任や筋道を大切にする象徴

月命星
九紫火星
違いや細部に気づく感覚の象徴

今回のご相談

職場で頼まれると断れず、自分で抱えてしまいます。後輩に仕事のやり方を伝えるときも、きつく聞こえたのではないかと気になります。今の役割は続けながら、負担を減らす伝え方を知りたいです。

星の象徴を、相談に重ねてみる

六白金星では、引き受けたことをきちんと仕上げたい気持ちを読み解く手がかりにします。九紫火星では、違いを見つけたり、分かりやすく示したりする面に目を向けます。

Aさんの相談には「仕事の質を守りたい」「伝えたあとの反応も気になる」という二つの思いが見えます。ここからは、引き受ける量と相手に伝える基準を、短い言葉にする方法を考えます。

読み解きからの問い

「自分で仕上げたほうが確実」と感じて、任せた仕事を引き取る場面はないでしょうか。六白の責任感と九紫の細部への気づきを重ねて、確認したい点です。思い当たる場合は、仕事を渡す前に「完成条件と確認の時刻」をそろえることを、今回の重点にします。

九星の説明は、性格や未来の断定ではありません。ご自身の経験に合う部分を、振り返りの材料としてお使いください。

明日から試す、三つの伝え方

今回は、断ることだけを目標にせず、量・期限・優先順位を相手と相談する言葉を用意します。星の象徴から考えた視点を、相談場面に合わせて形にした提案です。

1 依頼には、今の状況と選択肢を返す

すぐに「できます」と返す前に、抱えている仕事と可能な期限を伝えます。優先順位を決める必要があるときは、その判断を依頼者と共有しましょう。

> 「今はAの対応中です。Bは明日午前なら対応できます。今日中に必要なら、どちらを先に進めましょうか。」

2 任せるときは、完成の条件を二つに絞る

細かな手順をすべて指定するより、「何ができていればよいか」を先に合わせます。途中で一度確認する時間も決めると、任せる範囲が見えやすくなります。

> 「今回は、金額の確認と提出日の記載をお願いします。進め方は任せます。15時に一度、途中の状態を見せてもらえますか。」

3 指摘の前に、目的と相手の考えを確かめる

直したい点が見つかったら、まず「何のために直すか」を共有します。そのうえで相手の意図を聞き、一度に扱う修正点を絞ります。

> 「読み手が迷わず確認できるようにしたいです。この項目を選んだ意図を教えてもらえますか。まず一つ、一緒に整えましょう。」

例文は職場の役割や権限に合わせて調整してください。業務量を自分で調整できないときは、上司への相談材料として使います。

1週間の使い方

三つを一度に変える必要はありません。いちばん負担を感じる場面を一つ選び、短い言葉を試してみましょう。

1日目

一つの場面を選ぶ

最近「引き受けすぎた」と感じた場面を書き出し、量・期限・役割のどこが曖昧だったかを確認します。

2〜6日目

同じ言い方を数回試す

選んだ例文を、自分の言葉に直して使います。相手の返事と、実際に決まった期限・担当を一言ずつ記録します。

7日目

使いやすさを振り返る

負担が減った場面、言いにくかった言葉を見直します。続ける言い方を一つ残し、合わなかった表現は直します。

昌和からのひとこと

Aさんが守りたい仕事の質を、周囲にも分かる言葉にしてみてください。任せる範囲と期限を共有すると、責任の分担を相談しやすくなります。ご自身に合う言い方を、一つずつ見つけていきましょう。

この見本について

これは商品の内容を確認するための架空の相談例で、購入者の感想や鑑定実績ではありません。相談に合わせた助言は作成例です。九星気学の象徴を使った自己理解の読み物であり、性格や将来の出来事を確定するものではありません。

計算と参考資料（確認日：2026年11月3日）

本命星：1＋9＋8＋5＝23 → 2＋3＝5 → 11−5＝6。
月命星：六白の7月節は九紫。1985年の小暑は7月7日13:19、立秋は8月7日23:04（日本時間）。
占星術スカイ「九星気学早見表［気学講座対応］」／国立天文台「二十四節気・雑節 長期版（1985年）」
象徴の参考：吉報道「六白金星」・「九紫火星」。解釈の位置づけには流派による違いがあります。